

**製品名: UPK1A ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe86801**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	Calculated MW:29 kDa; Observed MW:29 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	UPK1A
別名	UP1A; UPIA; UPKA; TSPAN21
遺伝子ID	11045
SwissProt ID	O00322
免疫原	ヒトウロプラキン la の合成ペプチド

**背景**

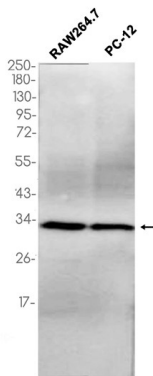
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、膜貫通型4スーパーファミリー（テトラスパニンファミリーとも呼ばれる）のメン

バーです。これらのメンバーのほとんどは、4つの疎水性ドメインの存在を特徴とする細胞表面タンパク質です。これらのタンパク質は、細胞の発生、活性化、増殖、および運動性の調節に関与するシグナル伝達を媒介します。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、非対称単位膜 (AUM) に存在し、そこで他の膜貫通型 4 スーパーファミリータンパク質と複合体を形成します。このタンパク質は、膀胱上皮の正常な生理機能において、表層アンブレラ細胞の膜透過性の調節、または AUM/細胞骨格相互作用を介した頂端膜の安定化に関与している可能性があります。また、腫瘍抑制にも関与している可能性があります。選択的スプライシングにより、この遺伝子には複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2013 年 7 月]

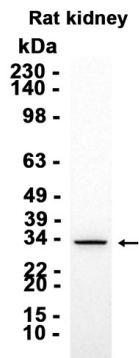
## 研究分野

-

## 画像データ



UPK1A ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用して RAW264.7、PC-12 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。



AMRe86801 を 1:1000 で使用してラットの腎臓組織抽出物をウェスタンブロット分析しました。